



物を見るのは精神である。
物を聞くのも精神である。
眼それ自体は物を見ることはできない。
耳それ自体は物を聞くことはできない。

FROM HEARING

僕が生まれた島、小値賀の穏やかな海。僕は、この風景が好きでした。
いつも、この海の向こうに広がる世界に想いを馳せて眺めていました。
見えないからこそ、何もないからこそ、
自由なイマジネーションを育ててもらいました。
僕が島からもらった“たからもの”。ようやくお返しできるようになったかな・・・。

なんにもないと思っていたところに、実は“宝”が隠されてあったんですね。
そう思えるようになった僕のストーリーを読んでください。

SAKAIS 代表 坂井 孝範



A serene landscape photograph of a sunset over a body of water. The sky transitions from a deep blue at the top to a warm orange and yellow near the horizon. The sun is partially obscured by the horizon, creating a soft glow. In the background, dark silhouettes of mountains and hills are visible against the bright sky. The water in the foreground is calm, reflecting the colors of the sunset.

COMES WISDOM





STORY WRITER TAKAORI SAKAI

MESSAGE IN A STORY , , ,

SAKAIS ストーリーライター 坂井 孝範

アサガオは朝の光によって花開くわけじゃない。
 夜の冷たさと闇の深さが、花を開かせるんです。
 深く悲しむものこそ、
 本当のよろこびに出会うってことを
 絶対に忘れないで…。

唐突に何のこと？って
 驚いたかもしれませんね。

これから“真実のストーリー”の大切さを分かってもらえるように
 あまり話したことない僕のエピソード、打ち明けますね



なぜ、僕がストーリーアンリミテッドというビジネスを
発明するに至ったかについて。



20年間、業界自体が右肩下がり
で
厳しい経営が続いていた製材業者が
発想を180度転換して、
それまでゴミだった木屑を利用して
バイオマス発電で奇跡の復活をしたそうです。

V字復活するために何をすればいいか？

考えようとしても

とかく、いい面ばかり見つけようとしていませんか？

何か新しいものを足そうとばかり考えていませんか？

でもね、

こんな時こそ見方を変えてみたら…。

マイナス面にこそ目をつけるんです。

マイナス面の捉え方を変えて、プラスにしてやる！

そんな心意気で新たな価値を生み出せたら

それはそれは、素敵なことですよ。

もし今、なかなか出口が見つからず

暗く深い闇の中にいるように感じている人がいたら。

「いいことなんかひとつもない！」って
現実を嘆いている人がいたら。

これから話す僕の絆創膏だらけのストーリーに
少し耳を傾けてもらえれば嬉しいな。

あなただけにはきっと届くはず。
ストーリーに込めた**孤独のメッセージ**が…。



自分はひとりぼっちじゃないって
自信持って言える人は、本当に幸せだと思います。

僕はまだ、胸を張ってそう言えないけれど…。
前よりは信じられるようになったかな？

同じように淋しく思う人がたくさんいることを知ったし、
本当の意味でのひとりぼっちって
あり得ないことも知りました。

だからこそ！
これから僕に、何かの“別れ”が来たって、
きっと耐えられるはず！！
あの頃の辛さに比べれば、
どんなことだって乗り越えられるはず！！



最悪だとしか思えない出来事。

実は、それが**今の僕を形作るきっかけ**になった
ってことがあったんです…。



逃げ出したくなる程つらいことって

誰にだってあると思います。

でもその一番の極みが“死”だと思うんです。

どんな困難があったとしても

死ぬわけじゃないから、

命まで取られるわけじゃないんだからって

もうひと踏ん張りすることはできますよね。

でも死という現実が目の前に迫ると

己を奮い立たせる言葉も見つからないんです。

死についてだから、あまり語ることはなかったんですけど

胸の内をさらけ出しますね。



19歳の秋でした。

突然、自分の命が終わってしまうという現実が

目の前に迫りました。

命の期限を知った時、
目に入る全てのものが、色を無くしました。
音を失いました。

夏休み中に交通事故に遭ったんです。
バイト帰りで僕が乗る自転車と
曲がり角から飛び出して来た軽トラックが衝突して
数メートル飛ばされ、肩甲骨を骨折したんです。

骨折自体は1ヵ月で治るからどうってことない。
その際に写したレントゲンが…
肩の関節部分に写った“黒い影”が問題だったんです。

どうも…骨肉腫の疑いがあると…。
つまり“骨のがん”です。
すぐに大学病院で検査入院することになりました。



検査入院ということで、からだ自体は元気だから
考えるのは病気のことばかり…。
当時はまだインターネットもない時代だったから、
外出届を出して僕は病院を抜け出しました。
「病気のことを知りたい！
治る方法があるって分かれば安心できる！」その一心で。
天神の書店で医学書を読み漁ろうと思ったわけです。



でも、どの本を開いても
 希望的観測は書かれてなくて…。
 立ち読みしながら
 全身、血の気が引いていくのが分かります。
 気が遠くなり、倒れそうなほどでした。

大勢のお客さんで賑わっている書店。
 こんなに周りには人がいるのに、
 こんなにひとりぼっちに感じたことはなかった。

誰も今の僕の気持ちを分かってくれないだろうな…。

店内BGMさえも次第に聴こえなくなって、
 指の先から冷たくなっていくのを感じました。
 お腹の中心からブルブル震えも出始めました。

万が一、命を救える見込みがあったとしても
 片腕を切断する手術が大前提。
 この事実にもショックでした…。
 それでも助かる可能性は極わずかしかなければ。

ああ～、僕の遺骨は片腕になるんだな？って
 火葬場の光景が強烈に目に浮かびました。
 五体満足に産んでくれた両親に申し訳なかった。
 トイレで息を殺して、嗚咽しました。

僕が悲しいだけじゃなかった。
父と母が哀しむ光景を想像してしまって
心が痛かった。



19歳にして生涯で初めて
“**絶望**”という感覚を知った僕。

自分ではとてもコントロールできない
重く暗い渦に巻き込まれているようで。
自分の存在なんて、とても小さい塵のように感じて、
だんだん消えて行くかのようなようでした。

何があっても、もう笑うことはありません。
楽しいことなんか何ひとつありません。

友達もお見舞いに来てくれたけど
誰にもこの寂しさを話すことはできなかった。
傍で付き添ってくれていた両親・叔母にも
弱音を吐くことも、
胸の内を打ち明けることもできなかった。

ひとりで抱え込むのは本当にきつかった。
消灯後、病室の闇がとても寂しくて怖かった。
寝てしまったら、



もう二度と目が覚めないんじゃないかという恐怖。
 毎晩、今日が最後かも？っていう
 恐れと不安でどうにかなりそうでした。

約1ヵ月、精密検査の結果が出るまで
 そんな抜け殻のような時を過ごし、
 心労でげっそり痩せてしまいました。
 血便が出た時には、いよいよ終わりが近づいたと悟り、
 誰にも話すことができなかった。

孤独でした…。

叔母はその頃の僕の姿を見て、
 本当に命の灯が消えそうに見えたそうです。
 顔色も青白かったそうで。



しかし、僕は**強運の持ち主**なんです！！

小さい頃からSOSの時に
 なぜか必ず**助け舟**がやってくるんです。

入院中に骨肉腫の権威と言われる先生が
 たまたまその大学病院にいらっやっていました。
 先生の見立てでも、その腫瘍は悪性には見えなそうでした。

でも！！

詳しい検査の結果、良性だと分かったんです。

「極めて悪性の顔つきをしているんですが、
幸運なことに増殖しない腫瘍のようです」
先生は両親へ本当に不思議そうにお話になったそうです。

気丈に振る舞っていた父も
眠れない日が続いたそうで体重が激減していました。

「自分が代われるものなら代わってやりたい……」
母は泣いてくれました。

両親から、あの時ほど思い悩んだことはなかったと
後で聴きました。

親の想いの深さを知りました。
本当に心配をかけて申し訳なかったです。



良性と分かって、退院が決まった時、
それまで黒ばかりだったオセロが
パタッパタッパタッと
一気に全部白に変わったような喜びでした！
飛び上がりそうなほど嬉しいというのは
こういう感覚なんだと初めて知りました！！



もう泣きましたよ。

身体じゅうに熱い血が流れるのを感じながら。

頭上に重くのしかかっていた暗い雲が

一瞬で消え去ったかのように。

生涯で最高に「ありがとう！」って感じた瞬間です。

「お前は、まだ生きていい」って

寿命を延ばされたようなものですから。

退院した日のことは今でも忘れません。

息をしているだけで嬉しいんです。

外に出ただけで嬉しい。

歩いただけで嬉しい。

時間があるだけで嬉しい。

横断歩道を渡るだけで嬉しい。

くだらない話をするだけで嬉しい。

ご飯を食べるだけで嬉しい。

明日が来るだけで嬉しい。

もう何だって嬉しいんですから！



入院中はこんなことを想っていました。

僕にはもう未来がないんだな…。
20歳を迎えることもできないかもしれない。
やりたいことも見つけれなかった。
結婚もできなかった。
子どもの顔も見ることもできなかった。
もっと遊びたかった。
もっと勉強すればよかった。
もっと本を読みたかった。
いろんな世界を旅したかった。
親孝行できなかった。
何のために生まれて来た19年間だったんだろう…。

この世に未練しかありませんでした。
やりたいことは数えきれないほどで。



でも、それが全て実現できる時間を与えられたんです。
僕に**スイッチが入った瞬間**でもありました。

もう死ぬ時にこんな後悔はしたくない!!!

自分でも目の色が変わったのを感じるほど。
夢を見つけるため、夢を実現するため、
猛勉強するようになりましたね。
大学時代はあまり勉強しない、やる気のない学生だったのに(笑)



いろいろと紆余曲折はありましたが、
 広告業界で**自分の力を試したい!**という夢が見つかりました。
 グラフィックデザイナーとコピーライターという仕事に
 猛烈な憧れを抱いたのです。
 僕には**世界一カッコいい仕事**に見えました。



でも苦勞の末、デザイン事務所に入ってみると
 プロの世界は厳しく、レベルは想像以上に高く、
 なかなか上達することができません。
 今の道は天職ではなかったのかも?って
 弱気が何度も顔を覗かせましたね。

20代の僕は、**自分の無能さ**を呪いたいほどだった。
 何も出来ない自分をいつも嘆いていた。
コンプレックスの塊でした。

だから誰からも見向きもされてないと思ってた。
自分なんか価値がないと思ってた。
 この世の中の全ての人の方が自分より上に見えて
 全ての人が憧れの対象だった。

あの人みたいになりたい。
 この人みたいになりたい。
 自分でない誰かになりたい!

何かに追い立てられるように
いつも頭の中でもがいていた。

だから苦しかったんだ。
いつも力が入ってて、落ち着く時がなかった。
常に誰かに評価されているような…。



給料も薄給でしたから
家賃払えば、食費もギリギリで、
やることは本を読むことしかできない。
ひたすらアパートに籠り、将来に向けて
いろんな**武器**を**独学**で身につけようと、もがいてました。

本当に何もない地味な日々でした。

でもね…
今になって思えば、
僕は**あの日の自分が大好き**なんです。
あの頃がたまらなく懐かしいんです。

あの時から**学ぶこと**に夢中でした。
子どもの頃からコツコツと何かを継続することは
あまり苦じゃなかったのが**努力**だとは思ってません。
ただそれが楽しかっただけだから。



今の僕が、あの頃の僕に
 「人の目なんか気にすることないさ。
 そのまんま、まじめに進めばいい！
 きっと40歳になった頃にはね、
これでよかったんだって笑える日が来るから」
 って声をかけたい程です(笑)

二人しかいないデザイン事務所だったから
 人数が多い事務所よりも、
 こなす仕事が圧倒的に多くなります。
 一年で二年分ぐらいの仕事をこなしていました。
 だから仕事のスピードがとても速くなり、
 急激にデザインのスキルが上達しました。
 3年目で「経験は6年分ある！」っていう**自負**と**自信**も出てきました。

人から見れば、あの頃の僕は貧乏で
 ただ惨めにしか見えなかったかもしれない。
 でも、僕はいつも思ってた。
 「貧乏を恥じることはない！
貧しいからこそ今できることもあるはず！
 だって僕には誰よりも**豊かな夢**があるから」
 目をつむり、未来に想いを馳せていました。
 輪郭なんかも見えないうらい霞んでいただけ。

本音を言えばね…。
 輝かしい未来の夢ぐらい持たなければ、

その頃のくすんだ現実には耐えられないっていう
現実逃避だったのかも。
自己研鑽ばかりに没頭しましたね～。



そのおかげかどうか分かりませんが、
20代後半で広告代理店に誘われる機会がありました。
それから約13年、代理店で様々な経験をさせていただき、
さらに多くのスキルを身につけました。

でも、安定した会社員になっても
お金の使い道といえば、本か教材かセミナー参加ばかり(笑)
毎日、読書2時間を13年間。
ずっと自分に義務づけて続けていました。
高額なビジネス教材は積もりに積もって
数百万円分買っていました。

いい状態はいつまでも続かないって
どこかで思っていたんです。
いつどうなっても路頭に迷わないように
自分の力で生きいける準備だけはしておこうって思っていました。

でもその結果、今度はこう思うようになったんです。
「他の人には絶対に真似できない、
僕しか持っていない能力・強みを使って



僕にしか提供できないサービスを作りたい！

それはお客様を違った角度から輝かすことができる新たな手法。

心から本当に喜んでもらえるような」

次第に、広告のフィールドが少々狭く感じてきました。

そもそも、広告を作る流れ自体に

クライアントを満足させられない**致命的な欠陥**があることを

感じていたんです。

ほとんどがデザイナーとコピーライターで

分業して制作を進めます。

時間的余裕がない仕事がほとんどですから

デザイナーはコピーができる前から

レイアウトやラフデザインを完成させ

クライアントに提出します。

コピーライターは

そのレイアウトの文字量に合わせて

後から文章を書くんです。

おかしくないですか？

広告の反応率を上げるには

“**文章**”が重要な鍵を握っているのです。

そのいちばん大事な“文章”が後回しになっているんですから。

でも文章がOK出てから
デザインに入るといふ進め方も
分業だったらかなり困難です。

だから、僕は

デザインもできて、コピーも書ける

クリエイターになろうと、ずっと勉強を続けて
どちらも自分のものにしました。

コピーライターの視点とデザイナーの視点を持った

クリエイティブディレクターとして動けば、
コピーが先か？デザインが先か？という問題も
僕のアタマの中ですから同時進行できるのです。

これなら**クライアントの問題解決へ**

真に貢献することができる！

そういう気持ちで広告代理店で

クリエイティブディレクターとして勤務してきました。

すると、こんな目標を持つようになりました。

僕が作りたいのは**“広告でない広告”**みたいな。

真にお客様の売上に貢献できるような何かが見つかるはず…。

それはいつも頭の中にありましたね。

不遜にも僕がそれを必ず発明できると思ってたわけじゃないんですよ。

でももしそんなビジネスを作れたら、



自分自身を誇れるんじゃないかなって。

そのほうが一番偉大なクリエイティブだと思うし、

ビジネスモデルを発明するほうがスケールがデカいなって。



自然と30歳を過ぎた頃から、

憧れが広告クリエイターから**経営者の方々**に移ってきました。

偉大なビジネス、これまでになかった価値を提供するビジネス

を作った経営者は山のようにいらっしゃいました。

WHAT'S MISSING?

社会に欠けているものを

見つけ出す力を持ったアントレプレナー（起業家）。

そこに興味がスライドしてきたんです。

その結果、夢に近づく“**はじめの一步**”が見つかって

40歳で起業へと至るわけです。

起業した頃は、**経営者のストーリー**を書くという

具体的なアイデアは、まだ固まらず、

いろいろと失敗や試行錯誤を繰り返すんですけどね。

でも**夢に近づいている**のは感じていました。



もう～ほんとにね～。

起業してから、特に思うんですね。

あの苦しかった頃、

地道にコツコツと積み上げて来たものが

今の**僕の中心**を支えてくれているんだなあ～って。

ひしひしと感じているんです。

できることが増えた自分が今ここにいる。

若い頃、**なりたかった自分**にようやくなれたかな～って。

苦労とは微塵も思っ
てなかったけど、

そういうことってホントに大事だったんだなって。

ここまで走り続けられた原動力は

自信のなさや劣等感があったからこそ。

自信があつたら学び続けてなかったと思います。

これまでの経験が全て武器となっているんです。

あの頃は**全く関係ない**と思っていた事ですら

全てがストーリーアンリミテッドを作るために

学ばされたかのように。

器用貧乏になるからやめときな！って

スタークリエイターに馬鹿にされながらも

コピーとデザインを自分でやってこなければ、

今、ストーリーアンリミテッドは生まれなかった。



若い頃から、こうなることが分かっていた？って思うほど
今必要なことを過去に学んでいたんです。

マイナスでしかないと思ってたことですら
今にしっかりと繋がっている。

死ぬかもしれないという危機さえも
人生が変わるきっかけだったんだ。

無駄なものなんて、ひとつもない。
 経験しなければよかった出来事なんてないし、
 出会わなければよかった人も当然いないんだ。

どんなに嫌いなもの、嫌なこと、嫌いだった人だってね。

いや、そこにこそ人を輝かせる
“たからもの”がきつと隠されてるはず。
 とてもそうには見えないカタチをして。

今はまだそう思えない人に僕は伝えたい。

でもいつか…

「ああ、あのおかげで今があるんだな」って
 しみじみ振り返れる日がきつと来るから…。

だから、恥ずかしいこと、苦手なこと、コンプレックスを

腹の底からさらけ出すことって、とても重要だと思うんです。

そこにこそ、あなたの**独自性**とか**強み**が隠されているんです。
きっと…。

勇気を出して人に話してみてください。

自分では気づかなかった“たからもの”を発見しますから。
話したからこそ、思いもつかないアドバイスや
チャンスをいただくことって、きっとありますから。

真実のストーリーを語れば**本当の仲間**が現れます。

そういうコンセプトから生まれたのが
ストーリーテリングで経営者の想いを伝えること。
そんな場が**ストーリーアンリミテッド**なんです。

じゃあ、なぜ僕がそれを書くのか？



僕も昔は、**内面をなかなか見せることができない人間**でした。
だから**誤解されやすかった**んです。
何で分かってもらえないんだろうって寂しい思いをしました。

「人は目で僕を見ていても、心では見てないふり」
そんな受け取り方とかね(苦笑)



昔は、自分が嫌いだったから

ありのままの自分を見せれば

きっと人は僕のことを笑うだろうと思ってたんです。

だから失敗談とか弱音って

よっぽど仲がいい友達にしか話せなくて。

仕事では特に、自分の全てを見せてはいけないと

自分を隠して、**勝手に作ったルール**に縛られていた感じ。

だから話すことも、考えて考えた末に

ようやく口を開くもんだから、口数が少なかった。

それはそれは、話が盛り上がらなかったですね(笑)

こういうことを言ったら嫌われるかな？

こういうことを言ったほうが相手は喜ぶかな？

こんなコミュニケーションなんかお互い楽しいわけなくて

とても疲れていました。

特に会社内での飲み会なんか苦手でした。

相手からも何て思われていたか分かりませんよね。

いつも慎重に話すから、僕のほうから嫌ってると

誤解されることも多かったです。

きちんと語らなければダメだと思いました。

思ってることは外に出さないとダメだと思いました。

35歳ごろからですよ。

ようやくそれができるようになったのは。

やってみたら、ほんとに楽しかったし。

人と話すのが楽しくなったんです。

何でもさらけ出して、100%の自分を見せることが

どんなにリラックスできるかを知りました。

何より**自分が好きになりました。**

胸がスーッと軽くなってきました。

そうすると、**同じ想いや志を持っている仲間と**

出会えるようになりました。

今まで**自己開示**をしてなかったから

仲間になれるはずの人とも仲良くなることができなかつただけ。

自分はこんなことを本当はしたいんだ！って

心を開けば、それに人は**共感**してくれる。

それを笑う人がいたら笑えばいいさ。

離れていく人がいれば、離れていけばいい。

恥ずかしがらず、自信を持って、

熱くビジョンを語れば、熱く夢を語れば

同じ志を持つ人と出会えるようになるんです。

そして、僕と同じように

自分の弱い面や悩みを見せることができない人が

意外とたくさんいることも話してみても分かりました。



ひとりぼっちだと思っていた人が
自分だけじゃなくて、
こんなにたくさんいることに気づいたこと。

これは大きかったですね。

これがきっかけとなって、
ビジネスでも、きれいごとだけでなく
真実を語る事ができるサービスを考えれば、
多くの経営者は喜ぶんじゃないかと閃いたんです。

経営者の悩みのほとんどが人材について。

ストーリーを語ることは
従業員に向けても大きな変化を起こします。
意外と何年も一緒に働いていても
社長が従業員へじっくり語る機会って少ないものです。
そんな時間もなかなか捻出できないくらい
みなさんお忙しいと思いますし。

でも、胸の内を全て語れば必ず変わります。
人間性そのものを理解してくれるようになりますから。

「なぜこの事業を始めようと思ったのか？」

「なぜこの商品・サービスを販売しているのか？」

「あなたの会社は、社会へどんな価値を提供したいのか？」

「近い将来、どんな会社になっていたいのか？」

「顧客へどんな喜びを提供したいのか？」

Behind The Mask !

仮面を外して、**素顔**を見せた時、

きっと従業員の方は、**社長さんの想いに共感**して
少々の無理難題も乗り越えてくれることでしょう！

だって、**誰のために、何のために**

それを行う必要があるのかを理解しているから。

愚痴なんて出なくなるのは想像できますよね。

ストーリーテリングによって

従業員だけでなく、**顧客**もあなたのファンになることでしょう。

他にも**協力会社、株主、銀行、投資家、ご家族**との関係にも

“**信頼・信用**”が生まれます。

何よりも、**語るご本人が変わりますよ**。

今まで書かせていただいた経営者の方、全員がそうでしたから。

棚卸しをすることによって**過去の整理**がついて

アタマがスッキリされるようです。

これからのビジョンが明確になって、

どんなに多角経営しても**コンセプト**がブレなくなります。

点と点が結ばれて、**線**になるような。



静止画と静止画がつながって、動画になるような。

トップが変われば、そこで働く全ての人々が変わる。

つまり**日本が変わる。世界が変わる**んです。

書いたストーリーは

一番ご本人が何度も読みますから

自然と頭の中に焼き付きます。

顧客へ向けて、社員へ向けて話すことが

ストーリーに沿って一貫するようになったとも聞きます。

ストーリー取材中に

新たな事業のアイデアが閃かれることもよくありましたよ。

意外と**ヒントは過去にあった**ってことは、経験ありますよね。

自分の“**想いの変遷**”を人に読んでもらうことって

普通はめったにありません。

でもやってみれば**驚くような変化**が起きます。

一度書けば、一生残りますから。

たとえ経営者が亡くなったとしても

代々、会社の歴史として、理念として残りますから。

これって**ロマン**を感じませんか？

人に元気を与えるような素晴らしいストーリーって

実はみなさん一人ひとりお持ちです。

あなたしか持っていない“**たからもの**”。

外に出してあげましょう！

何もメディアに登場するような著名な経営者だけが

特別なストーリーを持つてゐる訳じゃないから。

あなたの“**経験**”という財産を、世の中に発信してみてください。

できるなら自分で書いてもいいんです。

でもどうせ書くからには、様々なタイプの方へ伝わるように

戦略的なライティングテクニックが必要です。

例えば**心理学的見地から感情に訴える**ように書くとか。

他にもいろんな秘訣をもとに書かなければ

情緒に働きかけるストーリーにはならないのです。

だから、そのためのあらゆるスキルを持つ

プロに任せた方が絶対に効果的です。

でもこれって広告のコピーライターには書けません。

広告とは全く違った作業をもとにして書いていますから。

ストーリーアンリミテッドは

第三者が書くことに実は秘密があります。

ストーリーは熱く語ったほうが

その温度が読む人に伝わります。

もし、自分で書いたとしたら



恥ずかしさや照れくささなどもあって

思いつきり熱く語れませんよね。

この人ナルシスト？って誤解されないかな？

いろんなこと気になりますよね。

そこで第三者の僕が書くことがポイントなのです。

もし恥ずかしいのなら、ライターに書いてもらったからって

僕のせいにしてください(笑)

照れ笑いしながら

「なんか、いいように書いてくれたんですね〜」って

このストーリーブックを渡せば

ナルシストとか思われる心配もなしです。

そういう逃げ道として僕を使っていただけで構いません。

だから、**思いの丈を全て語りましょう！**

一生に一度かもしれないから、

後悔がないよう、**全てさらけ出しましょう！**

あなたの周りの大切な人すべてに**残したいメッセージ**を。

今までコンプレックスだと思っていたことも

勇気を出して話してみましよう。

きっとプラスの側面が見つかりますから！

そこに人が価値を見出してくれます。

面と向かってはなかなか言えなかったことを

精一杯、大声で。

そうすれば、きっと**あなたの存在そのままを**
好きになってもらえますから。

自然体の自分で生きる。

どんなに楽になることでしょうか。

どんなに人間関係が楽しくなることでしょうか。

「思いがけなく出会うこと。めぐり合い」という意味の

邂逅(かいこう)っていう言葉が僕は好きです。

今までの自分にサヨナラを告げて

きっと**本当の自分**に出会えるはず。



これから出会う人へ、**素敵な関係が始まるように。**

初対面でも**すぐに距離が縮まるように。**

あなたの**内に秘めたビジョン**を語りましょう！

もったいないです！

あなたの素晴らしさは外に出してあげないと。

あなたの人となりを分かった人が増えれば

ビジネスもプライベートも、とてもリラックスできます。

若い頃、人と話すのが苦手だった僕が



何よりこんなツールを欲しかったんです。

ようやく見つけました。 **僕の使命は何か？**ってことを。

このために、

いつも心を表に出せなかった自分に悩む

“僕”として生まれて来たんだと今は思えます。

いつも考えすぎて、先の先を考えすぎて

人のことが気になりすぎて

言葉を発せなかった、行動できなかった性格を

与えられたんだと思います。

でも、そんな僕だからこそ

今、ストーリーが書けるんです。

子どもの頃からの**妄想癖**のせいで

いつも勝手に物語を作っていましたから。

当時はネガティブな物語ばかりでしたけど(笑)



今、僕は**真実の自分**を語ることで

自由になりました。

昔から僕が追い求めていたのが“**自由**”だったんです。

安易な自由ではありません。

真の自由とは「**自分に由る**」ということ。

それは人に与えてもらうものでもないし、
条件に左右されるものではない。

目をつむって、

イメージーションを自由に羽ばたかせれば
どこにだって行けるさ。

現実を想い通りにもできるさ。

なりたかった自分にだってなれるんです。

できてないのなら、それはまだ自分を信じきれてないから。

自分が自分を信じられなくてどうしますか？

あなただけは、あなたを応援し続けてください。

孤独を知ることって、悪いことじゃない。

人と近づくための大切なエンジンなのだから。

孤独と向き合い、乗り越えることが

経営者に求められている資質なのだから。

こんな僕ができたんだから、

誰にだってきっとできる！！

孤独を知る人ほど、**人生はきっと豊かになれるものだから。**

人の孤独を受け止めたうえでの



優しさが持てれば、どんなことだって
耐えられるから。



皮肉なもので、このストーリーアンリミテッドの
ビジネスプランが完成した頃、
母が他界しました。

僕が19歳の時、
できることなら病気を代わってやりたいと言った母。
それまで元気だった母が、
次から次に大病を繰り返すようになったのが、
僕が20歳の頃からなんです。
結局、最後の大きな病いとなった卵巣がんで
73歳の生涯を終えました。

葬儀の最後の挨拶で、母へ思いの丈を語ることはできたけど、
「お母さん、本当に“おい(僕)”の病気を
代わりに持って行ってくれたっちゃろ？
おかげで僕は、あれからずっと健康なのがその証拠。
23年間、手術や入院ばかり続いてきつかったね」
これだけは、涙が溢れて言えなかった。
想いが込み上げて言えなかった。

もともと両親ともあまり話すタイプじゃなかったからこそ

最後まではこのことを言わなきゃいけなかったんだけど、
結局ダメだった…。

親が子を思う気持ちがどれだけ強いかな。

全力で子どもを応援すること。

今でも母が**大声で僕を応援してくれた声**が聴こえます。

身を以て両親に教えられました。

僕もそんな人になれるかな…。

若い頃は、尊敬する人を外に求めてた。

でも今は、両親を本当に尊敬します。

遠くを探さなくても近くに手本がありました。

青い鳥ってこういうことだったんだ。

「だから、ありがとう」

その一言を伝えたかったんだ。

生きているうちに…。

これが伝えられなかったこと。本当に悔やんでいます。

思っていることは

思った時に言わないと一生の後悔になる。

身を以て知りました。

もうこんな後悔はしたくないし、



あなたにも後悔してほしくない。

あなたの大切な人には

あなたが思うことを語ってください。

いつ会えなくなるか分かりません。

本気で語れば、

きっと**全力で受け取ってくれます。**



過去に孤独を知った人ほど

今は孤独ではないってことを強く感じるはず。

夜の冷たさによって花咲くアサガオのように。

花を咲かせるチカラ。

それはあなたの中にある力と同じチカラ。

人間も自然の一部なのだから。

チャールズ・チャップリンも映画でこう言っています。

「宇宙にある力が、地球を動かし、木を育てる。

君の中にある力と同じだ。

その力を使う**勇気と意志を持つんだ**」



あなただけには受け取ってほしい。

孤独のストーリーに込められた希望のメッセージを。

同じものなんかひとつもない。

世界中、人の数だけあるストーリー。

僕が生涯をかけて、全力で掘り起こしますから。

あなたが観たい景色を、一番前で観るのはあなたです。

形にしたら、大切に受け取ってくださいね。

では、また出会える日まで。お元気で。

MESSAGE IN A STORY , , ,

ストーリーライター 坂井 孝範



※2〜3ページ見開きの海の写真は、母が亡くなって島に帰った日に撮った朝日です。

取材・執筆: **STORY UNLIMITED PRODUCTIONS**



WHAT'S MISSING?

∞ STORY UNLIMITED



社会に欠けていたものがストーリーだった。

ストーリーを語り始めた時、

人との関係全てに与える影響力の大きさに気づきます。

偉大なストーリー、心を動かすストーリーの力は強大なのです。

経営者・起業家が“真実のストーリー”を語れば、

人間関係で最も大切な“信用”がいち早く創造できるのです。

経済活動が成熟化すればする程、単なる情報だけでは比較・差別化が困難になります。

そこで究極の差別化が“事業への想い”なのです。

そして、最強のオリジナルコンテンツがストーリーだったのです。

あなただけしか持っていない“たからもの”。

外に出してあげましょう！



SAKAIS
TRUE STORY MAKES TRUST

代表 坂井 孝範

STORY UNLIMITED PRODUCTIONS

私たちはストーリーライターのネットワークを築いて、

心を込めたストーリーを続々と生み出しています。

ストーリーライティングのプロしか知らない秘伝のノウハウを駆使して

大切にたいせつに、温度がある言葉を紡いでいきます。

語り始めた時に起きるミラクルを、あなたも体験してみてください。

☎ 090-5294-9429



アサガオは朝の光によって
花開くわけじゃない。
夜の冷たさと闇の深さが、
花を開かせるんです。

深く悲しむものこそ、
本当のよろこびに出会うってことを
絶対に忘れないで・・・。



■ 経営者・起業家の熱い想いをストーリーにします

<http://story-unlimited.com>

✉ skitknr@gmail.com

STORY UNLIMITED PRODUCTIONS

制作・著作

SAKAIS
TRUE STORY MAKES TRUST



TRUE
STORIES
MAKES
TRUST